序…… 1
Ⅰ　ヨハネ記者とその読者　1
Ⅱ　ヨハネ伝の成り立ち　4
Ⅲ　ヨハネ伝と手紙との関係　7
Ⅳ　他の福音書との相違　8

本論　ヨハネによるイエス理解 …… 19

第１章　イエス・キリスト観…… 20
第一節　地上のイエス　20
（1）イエスにおける周囲の状況　20
（2）史的イエスでは内容が大切　23
（3）三一であるキリスト　35
第二節　奇跡的行い、イエス自身の復活など　41

第２章　終末論と予定説…… 49
第一節　終末論　49
（1）旧約との関係　49
（2）現在的終末論　52
（3）救いの出来事の完結性　58
（4）実存的終末（人の側からの対応）　63
第二節　予定説　67

第３章　信仰による霊…… 73
第一節　光と生命　73
（1）栄光、光としての子　73
（2）キリストは真理、復活、生命　76

第二節　信仰と慰め　84
（1）教え、慰めとしての霊と肉、罪、およびそれらの象徴　84
（2）キリストの内に留まる信仰と証しする知識　94
（3）サクラメント、水　102

第４章　清い心による愛、永遠の命とサタンによる罪 …… 108
第一節　生命と交わり　108
（1）永遠の命　108
（2）神との交わり　113
第二節　善と罪　118
（1）善行（愛）と悪行　118
（2）罪　123

第５章　パウロとの相違 …… 127
第一節　受肉と復活　127
（1）受肉観の相違　127
（2）復活と顕現　130
第二節　キリストと救い　132
（1）キリストと信者との接点　132
（2）救いの与えられ方の相違　141
第三節　本書の背景としてのパウロ理解　146

付録　アウグスティヌスにおける救済史的思考 …… 157
（一）罪の告白と洗礼　157
（二）救済史　168
（三）罪の伝播と霊的救い　174
（四）終末での見神　184

あとがき …… 195

1目次.indd　3　2011/04/19　20:04:04